

平成元年度北海道木材需給見通し

北海道林務部

1 はじめに

昭和60年後半からの急激な円高も、『平成』の時代を迎え、高値で安定した状態にあります。

この円高間の北海道の木材需要も急激な変化をみせ、今や、外材は道材の単なる補完材から協調の時代に入ったといえます。

この度、道知事の諮問機関である北海道林業振興審議会（湊会長）が去る2月23日北方圏センター会議室において開催され、平成元年度の「北海道木材需給見通し」について審議、承認されましたので、その概要について紹介します。

2 北海道木材需給見通しの総括（表1）

平成元年度の木材需給見通しを策定するにあたり、今回から円高以降急激に増加している製材の輸入についても木材需給に丸太換算ベースでカウントしています。

昭和63年度見込み

〔需要量〕

丸太、副材込みの木材総需要量は、住宅着工や

紙需要など内需拡大の好調を受け、対前年比105%の14,590千 m^3 となっています。

このうち、製材用はエゾ・トド、広葉樹が前年なみですが、カラマツと輸入製材の増加により、対前年比104%の4,780千 m^3 、パルプ用は紙需要の好調を受け、対前年比107%の8,440千 m^3 と大幅な増加、合板用は内需が好調ですが、輸出合板が大幅に減少しているため、対前年比99%の690千 m^3 となっています。

〔供給量〕

丸太、副材込みの木材総供給量は、需要の好調を受け、対前年比107%の14,697千 m^3 となっています。

このうち、道産材は、資源状況等から需要の増加があるにもかかわらず伸び悩み、対前年比100%の8,090千 m^3 です。

これに対し、輸入材は、丸太がわずかながら減少していますが、チップ、製材が大幅に増加しているため、対前年比116%の6,607千 m^3 となっています。

表1 北海道木材需給見通しの総括 (単位:千 m^3)

区分	期首 在荷量	需 要					供 給					期 末 在荷量	外 材 依存率 (%)	新 設 住 宅 (戸)	
		合 計	製材用	パルプ 用	合板用	その他 移出	合 計	道産材	外 材						
									計	丸 太	チ ッ プ				製 材
62 (実績)	3,635	13,864	4,579	7,903	694	688	13,769	8,076	5,693	1,969	3,453	271	3,540	41.1	88,090
63 (見込)	3,540	14,590	4,780	8,440	690	680	14,697	8,090	6,607	1,920	4,257	430	3,647	45.3	83,000
元年 (見通)	3,647	14,523	4,700	8,500	670	653	14,363	7,788	6,575	1,900	4,205	470	3,487	45.3	75,000

注)工場製材を含む

このため、外材依存率は対前年より、4.2ポイント上昇し、45.3%に達しています。

平成元年度見通し

[需要量]

丸太、副材込みの木材総需要量は、製材用の微減、パルプ用の微増により、見込み比 100%の14,523千 m^3 となっています。

このうち、製材用はエゾ・トド、広葉樹が住宅着工の低下により、需要の減少の見通しですが、カラマツ材は景気の好調を受け増加が期待出来るため、見込み比98%の4,700千 m^3 となっています。パルプ用は紙需要の増加が期待出来る反面、パルプ工場の生産能力の限界により、大幅な増加は望めなく、見込み比 101%の 8,500千 m^3 となっています。合板用は、エゾ・トド製材同様住宅の影響を受け、見込み比97%の670千 m^3 となっています。

[供給量]

丸太、副材込みの木材総供給量は、需要の減退と需要見合いの在荷量水準が予想され、見込み比98%の14,363千 m^3 となっています。

このうち、道産材は、資源状況などからさらに減少が予想され、見込み比 96%の 7,788千 m^3 で、また、輸入材は道産材補完見合いで見込み比 100% 6,575 m^3 です。

このため、外材依存率は 63年度見込みなみの45.3%になる見通しです。

3 部門別木材需給の動向

3.1 住宅(表 2)

昭和 63年度見込み

新設住宅着工戸数は2年連続の8万戸台で、対前年比94%の83,000戸です。しかし、持家は対前年比79%の24,000戸と大幅の減少となっています。

このため、木造率は前年より4ポイント低下し、55%となっています。

平成元年度の見通し

2年続いた住宅ブームも鎮静化に向かっており、とくに、貸家は供給過剰感があるため、落ち込みが予想されます。しかし、低金利、余剰資金の投資先として、依然7万戸台の住宅着工戸数が

1989年4月号

表 2 住 宅

(単位:戸数)

地域 区分 年度	北 海 道					
	計	新設住宅着工戸数			木造率 (%)	その他 住宅
		持家	貸家	分譲等		
60	63,522	21,338	31,650	10,534	63	8,027
61	66,643	22,818	33,608	10,217	61	7,456
62(実績)	88,090	30,445	45,188	12,457	59	7,018
63(見込)	83,000	24,000	45,000	14,000	55	6,400
元年(見通)	75,000	24,000	39,000	12,000	57	8,000

期待でき、見込み比90%の75,000戸となっています。

木造率は貸家、分譲の減少により、63年度見込みより2ポイント上昇し、57%の見通しです。

3.2 製材(表 3)

昭和 63年度見込み

エゾ・トドの出荷量は木造率の低下や持家の減少、さらに輸入製材の増加により減少し、対前年比96%の1,630千 m^3 となっています。しかし、原木消費量は在荷積み増しによる生産量の増加により対前年比101%の2,530千 m^3 となっています。

カラマツの出荷量は国内景気の好調を受け移出、道内向けとも増加しており、対前年比105%の360千 m^3 となっています。このため、原木消費量も増加しており、対前年比 105%の 660千 m^3 となっています。

広葉樹の出荷量は道内資源現況から、年々減少していますが、円高後輸入丸太の増加により、微減に留まり、対前年比97%の590千 m^3 となっています。しかし、原木消費量は、生産見合いの対前年比100%の1,160千 m^3 となっています。

平成元年度見通し

エゾ・トドの出荷量は、住宅着工数が減少しますが持家が63年度見込みなみの予想ですので、住宅の落ち込みほどの減少はなく、見込み比98%の1,590千 m^3 となっています。

カラマツの出荷量は依然、国内景気が好調であることから、移出、道内向けとも期待され、見込み比104%の380千 m^3 となっています。

表3 製材

単位：千m³

区分 年度	原木消費量			製材生産量			製材出荷量			出荷量の内訳						
										道内向け			移出向け			輸出
	計	針	広	計	針	広	計	針	広	計	針	広	計	針	広	広
60	4,285	(2,269) (699)	1,317	2,588	(1,500) (390)	698	2,553	(1,476) (385)	692	1,973	(1,335) (78)	560	564	(141) (307)	116	16
61	4,169	(2,301) (647)	1,221	2,483	(1,510) (347)	626	2,486	(1,498) (352)	636	1,949	(1,367) (74)	508	525	(131) (278)	116	12
62実績	4,308	(2,516) (629)	1,163	2,580	(1,639) (343)	598	2,644	(1,690) (344)	610	2,096	(1,540) (67)	489	542	(150) (277)	115	6
63見込	4,350	(2,530) (660)	1,160	2,604	(1,654) (359)	591	2,580	(1,630) (360)	590	2,030	(1,480) (70)	480	547	(150) (290)	107	3
元年見通	4,230	(2,440) (690)	1,100	2,530	(1,595) (375)	560	2,525	(1,590) (375)	560	1,969	(1,440) (73)	456	554	(150) (302)	102	2

注：()はエソ・トドマン等で内数
はカラマツで内数

広葉樹の出荷量は住宅の減少による家具・建具用等の減少と資源供給状況などから、見込み比95%の560千m³となっています。

3.3 パルプ(表4)

昭和63年度見込み

パルプ材の総需要量は新聞紙、OA機器関連紙の増加等により大幅に増加し、対前年比107%の8,440千m³となっています。しかし、道内チップ工場への出荷が主体である道産材は、輸入材との価格差で伸び悩み、対前年比98%の4,350千m³となっています。このため、総需要量の増加分は輸入材で対応したことになり、輸入材は対前年比118%の4,090千m³と昭和54年度以来の400万台となっています。

平成元年度見通し

パルプ材の総需要量は依然、紙需要の好調が予想されていますが、道内パルプ工場の生産能力により、大幅な増加は望めなく、見込み比101%の8,500千m³となっています。このうち、道産材は原料供給事情により減少は避けられず、見込み比98%の4,270千m³となっています。このため、輸入材は道産材の減少分の増加で、見込み比103%の4,230千m³となっています。

3.4 合板(表5)

昭和63年度見込み

道材合板の出荷量は内需向けが好調ですが、輸出向けが激減しているため、対前年比97%の5,100万m²となっています。

ラワン合板の出荷量は移出向けが半減していますが、道内向けが好調に推移し、対前年比100%の3,490万m²となっています。

平成元年度見通し

道材合板の出荷量は内需向けが住宅の需要減見合いで減少し、見込み比97%の4,950万m²となっています。輸出向けについては、かなり厳しい状況ではありますが、対米ルート確保を期待できると予測しています。

ラワン合板の出荷量はインドネシア合板の対日販売一本化の影響がどのように現われるか難しいが、住宅などの需要減が予想され、見込み比96%の3,360万m²となっています。

4 木材供給の動向

4.1 所管別立木伐採(表6)

昭和63年度見込み

立木伐採量は針葉樹の増加、特にカラマツが増加していますが、広葉樹の減少が大きく対前年比100%の7,687千m³となっています。

1989年4月号

表4 パルプ

単位：千㎡

区分 年度	要 内 訳												材 入 材											
	需 数				道 産 材				内 産 材				輸 入 材				材							
	計	針	広	丸	計	針	広	丸	計	針	広	丸	計	針	広	丸	計	針	広	丸	計	針	広	丸
6 0	7,303	(2,834) (865)	3,689	809	6,494	(2,067) (823)	3,604	809	4,782	(1,364) (837)	2,201	2,581	809	3,973	(597) (795)	1,392	2,581	1,498	1,023	(1,470) (28)	2,521	1,498	1,023	
6 1	7,476	(3,193) (851)	4,044	860	6,616	(2,400) (784)	3,432	860	4,567	(1,372) (833)	2,205	2,362	851	3,716	(588) (766)	1,354	2,362	1,889	1,070	(1,821) (18)	2,900	1,889	1,070	
6 2 実績	7,903	(3,528) (821)	4,349	852	7,051	(2,741) (765)	3,554	852	4,424	(1,427) (747)	2,174	2,250	835	3,989	(657) (682)	1,339	3,479	2,175	1,304	(2,101) (74)	3,462	2,175	1,304	
6 3 見込	8,440	(3,915) (825)	4,740	870	7,570	(3,105) (765)	3,700	870	4,350	(1,430) (760)	2,190	2,160	850	3,500	(640) (700)	1,340	4,090	2,550	1,540	(2,485) (65)	4,070	2,550	1,540	
元年見通	8,500	(3,885) (825)	4,710	860	7,640	(3,085) (765)	3,790	860	4,270	(1,390) (760)	2,150	2,120	830	3,440	(620) (700)	1,320	4,230	2,560	1,670	(2,495) (65)	4,200	2,560	1,670	

注：() はエノン・トド等で内数
() はカラマツで内数

表5 合 板

単位原木：千㎡ 製品：万㎡ (4ミリ換算)

区分 年度	原木消費量				製品生産量				製 品 出 荷 量																							
	ラワン		道材		ラワン		道材		道 内				移 出				輸 出															
	計	針	計	針	計	針	計	針	計	針	道材	ラワン	計	針	道材	ラワン	計	針	道材	ラワン	計	針	道材	ラワン								
6 0	726	332	394	334	9,507	3,497	6,010	3,613	5,988	4,470	3,295	1,175	3,790	318	3,472	1,341	604	270	334	355	8,944	3,504	5,440	3,507	5,257	4,486	3,173	1,313	3,902	334	3,568	376
6 1	604	270	334	334	7,631	2,369	5,262	2,335	5,511	3,328	2,063	1,265	3,677	292	3,385	861	694	339	355	340	8,622	3,473	5,149	3,490	5,100	4,570	3,315	1,255	3,915	175	3,740	105
6 2 実績	690	350	340	330	8,310	3,360	4,950	3,360	4,950	4,400	3,200	1,200	3,810	160	3,650	100	670	340	330	340	8,310	3,360	4,950	3,360	4,950	4,400	3,200	1,200	3,810	160	3,650	100

表6 所管別立木伐採

単位：千m³

所管別 年度	合計			国有林			道有林			大学演習林・鉄道林			一般民有林		
	計	針葉樹	広葉樹	計	針葉樹	広葉樹	計	針葉樹	広葉樹	計	針葉樹	広葉樹	計	針葉樹	広葉樹
60	8,878	(2,913) (2,178) 5,091	3,787	4,476	(2,191) (301) 2,492	1,984	1,042	543	499	147	(92) (6) 98	49	3,213	(169) (1,789) 1,958	1,255
61	8,043	(2,803) (1,940) 4,743	3,300	4,345	(2,118) (348) 2,466	1,879	1,023	536	487	133	(472) (64) 536	62	2,542	(146) (1,524) 1,670	872
62 (実績)	7,721	(2,856) (1,829) 4,685	3,036	4,261	(2,160) (330) 2,490	1,771	962	518	444	109	(484) (34) 518	46	2,389	(155) (1,459) 1,614	775
63 (見込)	7,687	(2,895) (1,945) 4,840	2,847	4,141	(2,218) (322) 2,540	1,601	891	501	390	89	(457) (44) 501	28	2,566	(160) (1,578) 1,738	828
元年 (見通)	7,355	(2,720) (1,945) 4,665	2,690	3,909	(2,083) (322) 2,405	1,504	777	457	320	89	(410) (47) 457	31	2,580	(169) (1,576) 1,745	835

注：()はエゾ・トドマン等で内数はカラマツで内数

表7 道産丸太生産量

単位：千m³

用途別 年度	合計			製材用等			パルプ用		
	計	針葉樹	広葉樹	計	針葉樹	広葉樹	計	針葉樹	広葉樹
60	7,858	(2,649) (1,536) 4,185	3,673	4,344	(1,812) (937) 2,749	1,595	3,514	(837) (599) 1,436	2,078
61	6,748	(2,452) (1,344) 3,796	2,952	3,884	(1,638) (827) 2,465	1,419	2,864	(814) (517) 1,331	1,533
62 (実績)	6,693	(2,551) (1,312) 3,863	2,830	4,048	(1,773) (834) 2,607	1,441	2,645	(778) (478) 1,256	1,389
63 (見込)	6,665	(2,584) (1,352) 3,936	2,729	3,912	(1,800) (866) 2,666	1,246	2,753	(784) (486) 1,270	1,483
元年 (見通)	6,383	(2,472) (1,349) 3,821	2,562	3,657	(1,668) (876) 2,544	1,113	2,726	(804) (473) 1,277	1,449

注：()はエゾ・トドマン等で内数はカラマツで内数

所管別で見ると、国有林はエゾ・トドが増加していますが、広葉樹の減少が大きく対前年比97%の4,141千m³、道有林はカラマツが増加していますが、エゾ・トド、広葉樹の減少が大きく対前年比93%の891千m³、それに対し一般民有林は国・道有林の減伐、カラマツ製材およびパルプ材需要の増加により増加しており、対前年比107%の2,566千m³となっています。しかし、これは昭和61年度水準に戻ったに過ぎません。

平成元年度見直し

立木伐採量はエゾ・トドが需要の減少により、広葉樹が資源状況により、それぞれ減少の予測ですが、カラマツは製材用の需要増が期待できるため増加の予測であり、見込み比96%の7,355千m³となっています。

所管別で見ると、国有林は63年度見込み同様、減伐傾向が続き、見込み比94%の3,909千m³、道有林も国有林同様の減伐傾向で見込み比87%の777千m³、一般民有林は63年度見込み同様、国道有林の減伐、カラマツ製材需要の増加など増加要因があるが、供給能力などから見込み比101%の2,580千m³となっています。

4.2 道産丸太生産量(表7)

昭和63年度見込み

道産丸太生産量は広葉樹、特に製材用等がおおきく落ち込んでいますが、針葉樹製材用などおよびパルプの増加により、対前年比100%の6,665千m³となっています。

用途別で見ると、製材用などはエゾ・トド、カラマツがそれぞれ増加していますが、広葉樹の大幅な減少により、対前年比97%の3,912千m³、パルプ用は紙需要の大幅な増加に伴い、一般民有林

表 8 外材丸太の輸入

単位：千 m^3

区分 年度	丸 太								
	計	北洋材	針葉樹		米材		南洋材	その他 (広葉樹)	
			針葉樹	広葉樹	針葉樹	広葉樹			
6 0	1,462	629	(11) 270	359	362	361	1	465	6
6 1	1,691	845	(29) 398	447	484	472	12	362	
6 2 (実績)	1,969	840	(50) 478	362	623	601	22	482	24
6 3 (見込)	1,920	800	(10) 350	450	680	630	50	360	80
元年(見通)	1,900	770	(25) 270	500	680	600	80	350	100

注： はカラマツで内数

からの出材意欲が強くなり、対前年比104%の2,753千 m^3 となっています。

平成元年度見通し

道産丸太生産量はカラマツ以外は需要の減少や資源状況などにより減少し、見込み比96%の6,383千 m^3 となっています。

用途別にみると、製材用などのうち、カラマツは製材需要の増加が期待できますがエゾ・トド、広葉樹は製材需要の減少が予想されるため、見込み比93%の3,657千 m^3 となっています。また、パルプ用は需要における道材シェアの確保のため、見込み比99%の2,726千 m^3 が期待されています。

4.3 外材丸太の輸入(表 8)

昭和 63年度見込み

丸太輸入量は北洋材、南洋材の減少に対し、米材、その他の地域である中国などの増加と産地により増減しているが、総量では対前年比98%の1,920千 m^3 となっています。

樹種別で見ると、針葉樹については北洋材の減少が大きく対前年比91%の980千 m^3 であるのに対し、広葉樹は南洋材が大幅に減少させているにもかかわらず、北洋材、米材等道内製材工場の道材不足を補う形で大幅に増加し、対前年比106%の940千 m^3 となっています。

平成元年度見通し

北海道の木材総需要量および道産材の供給能力など、さらに外材産地国などの事情から外材丸太の輸入量を予測すると、北洋材、南洋材が減少

1989年4月号

表 9 外材製品の輸入

単位：千 m^3

区分 年度	製 品					
	製材	チップ		針葉樹	広葉樹	
		針葉樹	広葉樹			
6 0	92	57	35	2,545	1,522	1,023
6 1	73	38	35	2,809	1,773	1,036
6 2 (実績)	160	100	60	3,453	2,139	1,314
6 3 (見込)	260	180	80	4,257	2,612	1,645
元年(見通)	180	180	100	4,205	2,525	1,680

し、米材中国等その他の地域が増加し、総量では見込み比99%の1,900千 m^3 となっています。

樹種別で見ると、針葉樹は北洋材などの減少がさらに続き見込み比89%の870千 m^3 、広葉樹は道材供給能力の減少を補うため、北洋材、米材、中国材などの輸入増を期待し、見込み比 110%の1,030千 m^3 となっています。

4.4 外材製品の輸入(表 9)

昭和 63年度見込み

製材の輸入量は針葉樹、広葉樹とも増加し、対前年比 163%の 260千 m^3 で、丸太に換算すると430千 m^3 となっています。

チップの輸入量は紙需要の大幅な増加と道材供給能力の限界により、針葉樹、広葉樹とも大幅に増加し、対前年比 123%の 4,257千 m^3 となっています。

平成元年度見通し

針葉樹製材は、道内製材需要の減少見合いで減少との見方がありますが、産地国の丸太輸出から製材輸出へのシフトが強まっていることもあり、道内への輸入量は63年度見込み程度となることと、広葉樹の製材需要はかなり強いものと予測されることから、製材総量では見込み比 108%の 280千 m^3 で丸太換算すると470千 m^3 となっています。

チップの輸入量はパルプ側の需要と道材供給さらに在荷水準などから予測すると広葉樹は増加するものの総量では、見込み比99%の4,205千 m^3 とほぼ63年度見込みなみとなっています。

(文責 林産振興課木材需給係)